

人の利用影響把握調査（中間報告）

(1) 調査日時

平成 17 年 7 月 16 日（土）、17 日（日）、8 月 9 日（火）※16 日は夕方 4 時頃より降雨

(2) 調査対象

- ・西大台地区の周回線歩道
- ・調査員 2 人で観察し、歩道や登山道から目視できる範囲とした
- ・位置については S1:2500 図面に記録するとともに写真による記録を行った

(3) 調査項目

①歩道の洗掘状況

歩道面に対する深さが 60 cm 以上の箇所、または洗掘により連続的に石が露出している箇所

- ・長さ (m)、最大深さ (10 cm 単位)、高低差 (10cm 単位)

②歩道の複線化状況

- ・位置、本数、長さ (m)、高低差 (10cm 単位)、複線化の理由

③主な滞留箇所における裸地化等の状況

- ・位置、規模 (m×m)

④周回線歩道、登山道以外の踏み道の状況

- ・1/2500 図面上への記録 (把握可能な場合は始点、終点の記録)

⑤オオバコの分布状況

オオバコの分布が確認される箇所の把握

- ・5 株/m²以上群生地記録。5 m 以上続く大きなものは規模の記録

⑥その他課題点の確認

- ・野営・排泄跡、ゴミ不法投棄、利用者の課題行動等の位置、状況の記録

(4) 調査結果（中間報告）

①洗掘状況

規模の大きな洗掘は急斜面に対して直線的に登山道が配置されている箇所で、駐車場から入山してナゴヤ谷手前の斜面やヤマト谷の吊橋の東側の直登区間など数箇所に限られた。



北側ルート：ナゴヤ谷手前



南側ルート：ヤマト谷吊橋東の斜面

②複線化状況

大きく以下の2つのタイプの複線化が確認された。本来の歩道に洗掘等による凸凹や段差がみられており、登山者は無意識に（自然への影響を意識せずに）洗掘のない歩きやすい場所を探して歩く結果として複線化が発生するものと考えられる。

<タイプ1> 樹木等を中心に山側と谷側に踏み道ができるタイプ

歩道の線形と幹の位置関係や、洗掘前に形成された木の根と洗掘後の歩道面の段差や凸凹が新たな踏み道をつくる原因と考えられ、西大台では大半がこのタイプの複線化であった。



<タイプ2> 石が表面に現れている区間で歩きやすい土の部分に踏み道ができるタイプ

西大台ではセツ池～大和谷間、ヤマト谷吊橋から東の直登区間で顕著な事例が確認された。これらはタイプ①に比べて複線化の規模が大きく、数十mにわたる複線化が確認された。



<その他>

大半は上記の2タイプであったが、その他に教会下の分岐を南に斜面を下った地点でショートカットするための複線化、ナゴヤ谷で水溜りを避けて歩くための複線化等が確認された。



③裸地化状況

<ナゴヤ谷>

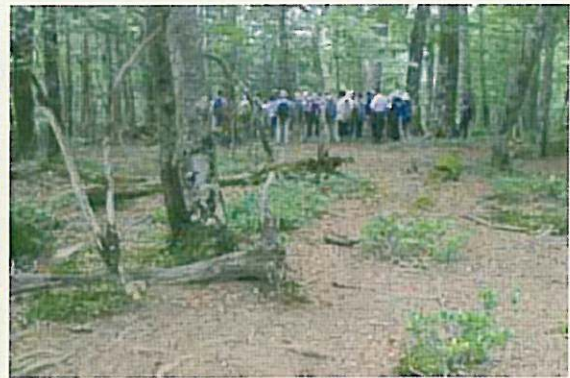
古くより拠点的利用がなされてきた土地であり、現在でも休憩等の滞留利用が確認されている。このため、無立木地が広がり、利用影響によると思われる裸地と植生の荒廃状況が確認された。

<七ツ池>

市販の登山マップ等にも紹介されている地点であることから、休憩地や写真撮影等のために林内に立ち入る利用が確認されている。傾斜が緩やかなため著しい洗掘は発生していないが、林内の下層植生はミヤマシキミの被度の高い部分と裸地化している部分が入り混じっており、裸地化している部分は利用者の踏み込みが影響している可能性が考えられる。



ナゴヤ谷



七ツ池

<開拓跡>

開拓跡の平坦地が広がっており、サインによる立ち入り禁止が示されているが多くの利用者による踏み込みの影響があるものと思われる。ただし、周辺を含め下層植生の乏しい林分であり、利用影響による明確な裸地化の範囲、程度の確認はできなかった。

<展望台>

眺望景観を楽しむ場となっており、利用者の滞留箇所となっている。このため、利用による影響と思われる裸地と植生の荒廃状況が確認された。



開拓跡



展望台

④周回線歩道、登山道以外の踏み道の状況

ナゴヤ谷、松浦武四郎分骨碑、七ツ池において公園計画に位置づけられていない踏み道が確認された。



松浦武四郎分骨碑への踏み道



笹場道～ナゴヤ谷への踏み道

⑤オオバコ分布状況

西大台周回線歩道では大台教会下、ナゴヤ谷でオオバコのまとまった分布が確認された。またドライブウェイの経ヶ峰付近から経ヶ峰分岐に下るルート上においてもドライブウェイから55mの区間に渡ってまとまった分布が確認された。このほかヤマト谷の吊橋付近や展望台においても複数の株が確認された。



教会下



ナゴヤ谷



ヤマト谷吊橋



展望台

<オオバコの分布確認箇所における植生への影響確認調査>

1. 調査地の選定

西大台における過年度の調査では外来種や踏みつけに強い植物種の調査が七ツ池、ナゴヤ谷、大台教会下の3地点の歩道沿いで行われており、ナゴヤ谷の調査区においてこれらの種の分布が確認されている。

本年度調査では西大台の周回線歩道の全線を踏査し、踏みつけに強い外来種であるオオバコの分布範囲が明らかになったため、オオバコの分布地点を利用影響が顕著に現れている地点として、同地点における草本植生の調査を行う。

外来種や踏みつけに強い植物の生息状況を明らかにするとともに、歩道から離れた地点の林床植生との比較を行う。

2. 調査区の設定

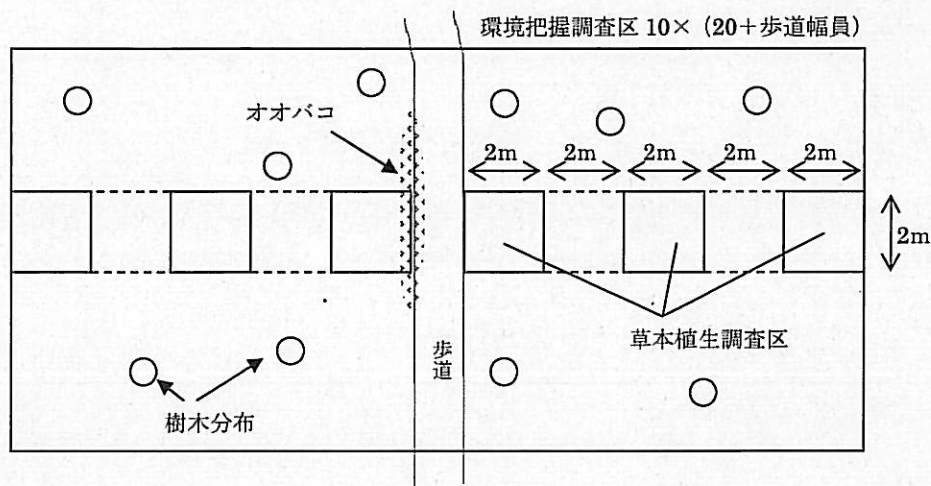
(1) 下図のようにオオバコの分布が確認されている歩道の両側に2m×2mの草本植生調査区をそれぞれ3箇所、合計6箇所設ける(調査区のサイズ、形状は現地の状況に応じて修正を行う)。

(2) 環境把握のための調査区として草本植生調査区を中心に10m×(20m+歩道幅員)の調査区を設定する。

3. 記録項目

(1) 草本植生調査区において確認種別の被度、群度を記録する(調査後、外来種分布状況、踏みつけに強い植物種の分布状況の分析を想定する)。あわせて相対照度を計測する。

(2) 環境把握調査区において胸高直径15cm以上の樹木の位置、樹種、胸高直径、樹高について調査し、樹冠投影図を作成する。あわせて斜面方位、傾斜について記録する。



⑥その他課題点

- ・西大台周回線歩道周辺では野営・排泄跡、ゴミ不法投棄等の目立つ箇所は確認されなかったが、経ヶ峰～経ヶ峰分岐ルートドライブウェイ付近では空き瓶等のゴミの投棄が目立った。
- ・また、今年度調査では確認されなかったが、歩道外に立ち入って写真を撮影する利用者が多くみられている。
- ・ペットの持ち込みも多く確認されており、7/16-17の調査では次表のペット（すべて犬）の持ち込みが確認された。



経ヶ峰付近ドライブウェイ沿い



歩道外に立入る利用者

2日間合計 12 時間に確認されたペットの持ち込み数
 (調査時間：平成 17 年 7 月 16 日 (土)、17 日 (日) 各 9-12 時、13-16 時)

		ペット数	入山者数	ペット数／入山者数
西大台	ナゴヤ谷方面入山口	0 匹	49 人	0.0 %
	中ノ谷方面入山口	0 匹	11 人	0.0 %
東大台	シオカラ谷方面入山口	2 匹	107 人	1.9 %
	日出ヶ岳方面入山口	10 匹	620 人	1.6 %
	中道入山口	3 匹	170 人	1.8 %
合計		15 匹	957 人	1.6 %



ペットを持ち込む利用者 (西大台にて)

* 写真は平成 16 年度調査時のもの

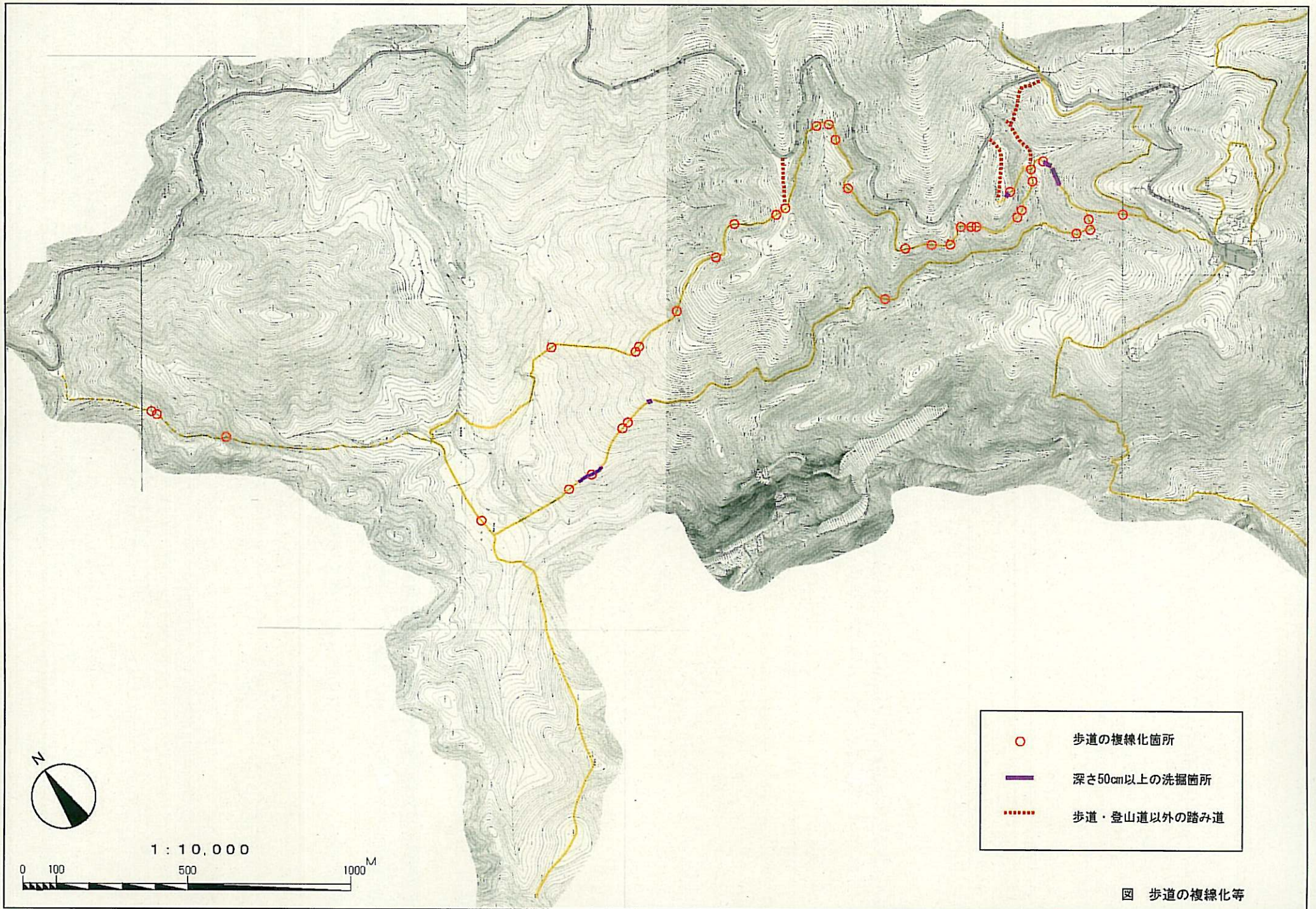


図 歩道の複線化等

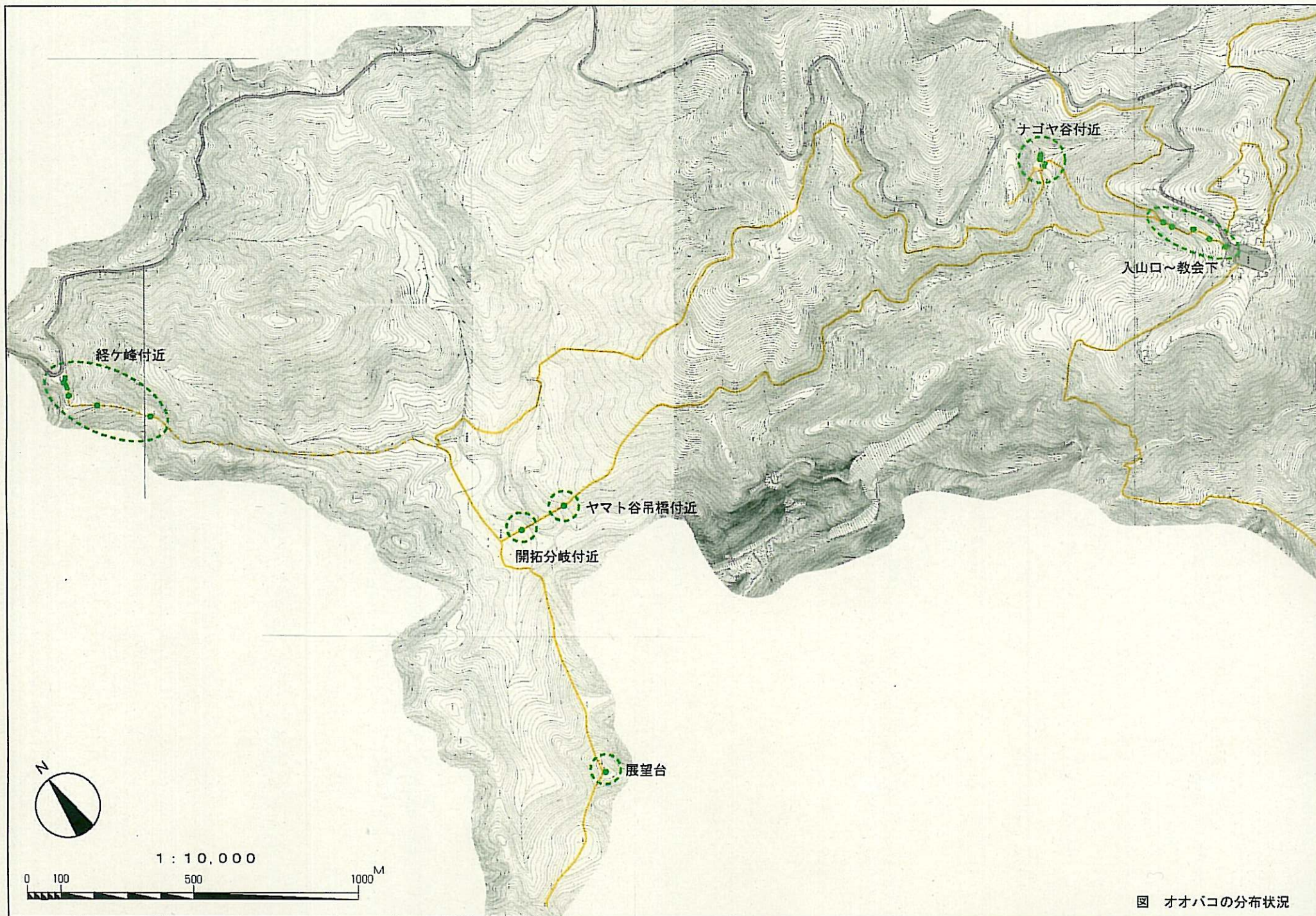


図 オオバコの分布状況